

今後10年間の町の財政状況は…

財政の中・長期見通しの公表について

● 推計期間 ●
平成28年度～平成38年度

「三種町行財政改革大綱」等を踏まえ、平成28年度から平成38年度までの三種町の中・長期的な見通しを公表します。
本見通しは、町の財政収支が今後どのように推移するかを試算したものです。
町の財源は、町税などの自主財源が全体の2割、半分以上を国からの地方交付税などに頼らなければならない脆弱な財政基盤となっています。

平成28年度からは、合併算定替の段階的縮減※による地方交付税の減額も行われています。本見通しによれば、平成38年度には約4億円の収支不足が生じ、累積赤字は約32億円になると試算されます。本町においては、段階的縮減による影響が大きく、影響額は最大約7億円の減額と試算されます。7億円から試算される累積影響額は、24億5千万円となり、収支不足の要因の一つとなっています。

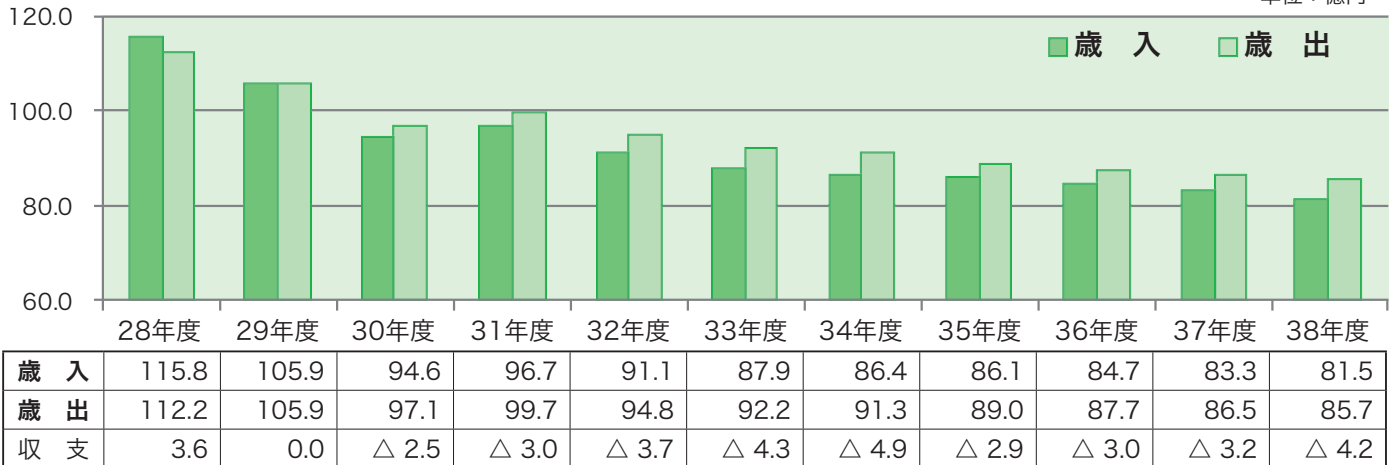
今後も一層の行財政改革に取り組み、「事業の選択と集中」により政策予算の財源を確保し、三種町の発展につながる施策・事業を積極的に実施していくことが必要です。

そのためには、町債(借金)を抑制し、財政調整基金(貯蓄)については財源不足に備え計画的な運用を行い、将来に向かって持続可能な財政基盤の確立が必要です。

※合併算定替の段階的縮減…合併後10年間は合併前の旧町が存続するものとして算定された普通交付税額が、11年目から段階的に減額され、16年目を以降1団体として算定されます。

● 普通会計の財政見通し (29年度現行サービスベース)

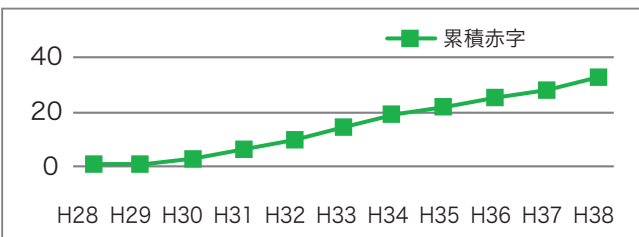
単位：億円



※単年度収支の確認のため30年度以降は財政調整基金繰入金を計上していない

● 累積赤字の推移

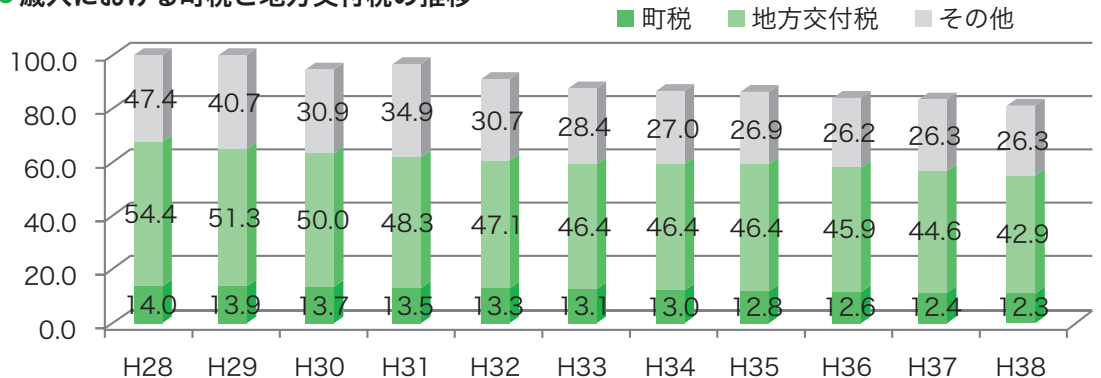
単位：億円



平成38年度には累積赤字が約32億円となります。これには財政調整基金の取崩による財源補てんを見込んでおりません。また、平成28年度末における財政調整基金残高は、約35億円のため、財源補てんをした場合、すぐに赤字団体にはなりません。計画的に使用しなければ将来的に財源不足に陥ります。

● 歳入における町税と地方交付税の推移

単位：億円



● 問い合わせ先
三種町役場 総務課財政係
電話 85-4816